

教職大学院 News Letter 第4号

2017.4.1

Since 2016

協創

にいがた教育フォーラム
2017in March 特集

3月4日(土)、新潟大学教職大学院院生の一年間の学びを報告し、新潟の教育についてともに考える「にいがた教育フォーラム 2017in March」を開催いたしました。はじめに、義本審議官より基調講演をいただきました。

基調講演「教育の未来と教職大学院の役割」(要旨)

文部科学省大臣官房総括審議官 義本博司氏



我が国の教育は、少子高齢化、学習への動機付けや実社会との関連の薄さ、教育格差などの多様な問題を抱えています。また、科学技術・産業政策・農業

振興・観光等に対応していくには人材育成が重要になります。そのような意味で、学校現場における教育の姿そのものが、これからの世の中の在り方に大きな影響を与えると考えます。

そこで、今回の学習指導要領改訂では、学校教育の全体像をわかりやすく見渡せる「学びの地図」として学習指導要領を示し、学校教育を通じて、「何ができるようになるのか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」ということを幅広く共有できるようにしました。

強調点として、主体的・対話的で深い学びを実現するために、高等学校の教科・科目構成の改革や学力の三要素を取り入れ多面的に評価を

行う大学入試改革を含む高大接続改革とセットで進めようとしていることが挙げられます。

一方、学校現場では、長時間勤務、教員の年齢構成の不均衡、初任者の力量不足などの課題が山積し、教員の資質向上とそのため学校の体制整備が求められています。そこで、養成、採用、研修の接続をより重視し、教員養成カリキュラムの改革をはじめ、科目等履修制度を活用した研修の充実等、教職生活全体を通じて学び続ける教師を支えるキャリアシステムの構築を実現していく必要があります。また、教員の業務負担軽減のために、ICTを活用した校務改善、業務の適正化、他専門職等によるチーム学校の実現などへの取り組みも重要になります。

教職大学院には、教育委員会・学校と連携・協働し、教員研修のハブとしてアクティブラーニングの方法による研修を実施したり、教員研修センターと連携した研修を採り入れたりと、課題を先取りした特色ある取組をしていただくよう期待しております。(文責 小久保)

高橋姿学長ご挨拶 (要旨)

現代社会においては、グローバル化、ICT、人工知能等の発展に伴い、これまでにない社会展開が予想されます。この近未来社会をたくましくしなやかに生き抜く汎用性の高い人材の輩出が教職大学院には求められています。また、日本の教育システムは海外から優れたモデルとして注目されてきました。それを維持し発展させていくという点でも、教職大学院の役割に大いに期待するところです。本日のフォーラムで皆様からのご指導・ご鞭撻を通して、よりいっそう教職大学院が発展することを願っております。(文責 古田島)

鈴木賢治研究科長ご挨拶 (要旨)

新潟県教育委員会、新潟市教育委員会、学校現場からの多大なるご理解とご協力を得て、この1年間、院生が学びの時間を得ることができたことに感謝いたします。今後は、院生を受け入れる連携協力校等において、院生の学びを学校現場に、学校現場での取組を院生の学びに生かしていくことが課題であります。さらに、これらを通して教職の専門性とは何かを紐解いていくことも、教職大学院の使命の一つだと感じています。本日のプログラムを通して、そうした教職大学院の取組を少しでも皆様にご紹介できればと思っております。(文責 古田島)

にいがた教育フォーラム 2017 in March プログラム

【午前】全体会・シンポジウム

9:30	開会の挨拶
9:45	基調講演
10:40	シンポジウム

【午後】分科会

13:30	ポスターセッション
14:40	ラウンドテーブル

分科会 ラウンドテーブルのテーマ

第1分科会 特別支援	学習参加が難しい子どもへの支援
第2分科会 学級づくり	教師と子ども、子どもと子どもの関係づくり
第3分科会 授業づくり	教科の本質に迫る学習課題の探究
第4分科会 グローバル化	グローバル化の進展に対応した英語教育
第5分科会 いじめ・不登校	いじめ・不登校のサイン見逃しが繰り返される背景
第6分科会 学校経営	教師の協働性を高めるチーム学校の体制づくり

シンポジウム

テーマ「教育の未来と教職大学院の役割」 －これからの新潟の教育について語り合おう－

小久保専攻長による本学教職大学院での院生の学びに関する話題提供の後、4人のシンポジストの方から、「教育の未来と教職大学院の役割」について、それぞれの立場に基づく考えを述べていただきました。その後、フロアとの間で質疑応答が行われました。

話題提供 教育実践開発専攻長 小久保 美子

最初に、本学教職大学院におけるカリキュラムの全体、院生の履修イメージ、他の関係教育機関との連携等について、説明がなされました。次に、現職院生と学部卒院生各1名を例に挙げ、それらのカリキュラムを通して、実際に院生にどのような実践知が形成されてきているかについて、それぞれの学びにおけるエピソードを基に紹介がなされました。具体的な実践知は、前者では「潜在化した実践知の顕在化のプロセス」、後者では「授業を想定した教科内容の知識の形成」に集約され、理論と実践の往還の具体的な姿が報告されました。

上所小学校長 遠藤 英和氏

「特定連携協力校としての志」と題して、「院生の受け入れと活用」の視点から、教師に求められる「学び続ける力」、学びを保障するシステムの構築、地域及び学校の教育力向上への貢献等についてお話しいただきました。また、「協働」の視点から、各院生の教職大学院での学びを自校の研究発表会の参会者に伝えるブリッジ講座のご紹介をいただきました。

県義務教育課参事 大橋 伸夫氏

県義務教育課の立場から、学力向上、生徒指導・道徳教育、特別支援教育に関する県の教育課題についてお話しいただきました。また、教師に求められる資質・能力等として「自らの課題を的確に捉え、協働的に授業改善を推進していく意思と力量」「いち早くいじめを認知し的確に対応する力」「粘り強さ」など、6つの力についてお話しいただきました。

市教職員課課長補佐 池田 浩氏

新潟市教育委員会の立場から、市教委が求める教員の資質・能力として、「授業力」「組織マネジメント力」「人間力」についてお話しいただきました。また、教職大学院の成果として、研究者教員と実務家教員が協働しながら、学校現場が抱える課題の解決につながる資質や指導力を高める実践的なカリキュラムが実施されていることを挙げていただきました。

県高等学校教育課参事 藤澤 健一氏

県高等学校教育課の立場から、高校進学率、大学等進学率、就職率、離職率などの高校教育の現状と、学校教育法第51条2項に基づいた高校の目標についてお話しいただきました。また求められる教育として「相手の心を想像できる共感能力」や「しっかりと目標を達成できる人」の育成、「様々な角度から考える楽しさを説くこと」についてお話しいただきました。

参会者の声

◆教職大学院の先進的な取組を知ることができた。院生同士の協働性（省察的实践家としての）を現場にもっと広めていただきたい。

◆教職大学院ができたことで、現場にどのような利点があるのかがもっと伝わるとよいと思った。



ポスターセッション

4つのテーマ（①学級づくり ②特別支援 ③授業づくり ④学校経営）に分かれて、各院生が1年間の学びを報告しました。各会場では報告に基づく活発な質疑応答が行われました。

➤ 学校経営・村上大樹院生：



「小学校教員の外国語教育に対する意識向上をもたらす校内研修の在り方を求めて」という題目で発表しました。

校内研修と言っても、講師を招聘するだけでなく、小グループで授業づくりを話し合ったり、定期的に授業実践の場を設けたり、便りを発行して学びを共有したりなど、研修の内容や方法に様々なアプローチを用いました。参会者の皆様からは、それらのアプローチに対する一定の評価をいただくとともに、未だ外国語教育に特化した提案ができていないことについて、ご示唆をいただきました。

2年目には、このご指導を生かし、現場で活用できるよう提案します。

➤ 特別支援・木村杏子院生：

「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学級・授業づくりの推進～特別支援教育コーディネーターの立場から～」というテーマで研究を進めています。

今回は、実習校で行った校内研修に焦点を当て、実習校の課題から何をねらいとしてどのように構成したかということ、そして校内研修を通して学んだことを発表しました。

参会の方々からは、その効果を子どもの姿から検証する必要があること、現場は多忙感が強いいため研究推進部と連携し職員に負担を増やさずに取り組むことが重要であることなど、今後の研究を考える上で、とても貴重なご意見をいただきました。



➤ 授業づくり・中明加奈枝院生：

教職大学院での講義や実習を通して学んだこと、実際の教育現場での実践経験によって変化してい

た課題意識について発表し、意見交流を行いました。発表の中で理論と実践を結び付けられない現状とその原因の分析について、参加して下さった先生方、教育関係者の方々から、経験を基にしたアドバイスや質問をいただきました。これからの課題や来年度の取組の方向性について、具体的に考えることができました。発表や交流の場を経験することで、自身の探究課題に対する見方・考え方が広がり、次なる学びに向かおうとする意欲が高まりました。



参会者の声

◆現場に直結する内容の発表で、役立てられそうなものが多かった。学術的ではなかったですが、実践的だと感じた。

◆管理職ではなくてもアイデアを出し、学校運営に参画できる実践例を聞くことができてもよかった。



ラウンドテーブル

ポスターセッションに引き続いて、ラウンドテーブルが行われました。6つの会場に分かれ、参会者の実践や悩みなどを聴き合い、互いの実践から学び合う活動が展開されました。

➤ 教師と子ども、子どもと子どもの関係づくり・松原由紀子院生：

「教師と子ども、子どもと子どもの関係づくり」に焦点を当てたとき、

- ・みなさんは、日々何を大切に実践をされているのか。
- ・これまでの経験で「関係づくりがうまくいかなかった」ということがあったとしたら、その要因は何だったのか。この2点について話し合い、聴き合いました。

私のテーブルでは、学部生から教育実習で関係づくりがうまくいかなかったという実際の経験が語られました。現職の先生方からはそれについてのアドバイスや日々の実践の中で大切にされていることが語られました。具体的な子どもや学級の姿を基に話し合うことで、これからの実践につながる時間となりました。

➤ **教師の協働性を高める
チーム学校の体制づくり・兒玉かおる院生：**



私のグループは、管理職、教諭、行政職かつ在籍校が小学校、中学校、高等学校と立場が異なる方々が揃い、学校がチームとして協働的に機能するための手立てや現状について話し合いました。

「一方的なトップダウンの指示の場合、できたとしても不満が募るが、教員が納得した上で仕事を始めると、意欲的に取り組むことができる」、「円滑な校内運営を図るために、管理職間で役割分担をする」、「新しい仕事を始める時、管理職は、地域や子どもの実態を把握し、教育の最新動向を踏まえ、なおかつ教師の持ち味を生かすような手立てを打つ」等、新たな知見を得ることができました。

➤ **教科の本質に迫る
学習課題の探究・齋藤潤次院生：**

授業づくりのラウンドテーブルでは、「教科の本質に迫る学習課題の探究」をテーマに活発な意見交換が行われました。現職教員や院生、学部生、教職大学院教員と様々な立場の方や教科の視点から話を聴くことができました。「学びの過程で子どもが見出した『問い』こそが教科の本質に迫る課題になるのではないか」

など、参加された方々の実践や経験の中から学習課題に対する考え方や工夫、悩みが語られました。参加された方々のお話に耳を傾けることで、「子どもが自らの成長を感じることができる授業づくり」を教師が求め続けることの大切さを再確認でき、有意義な時間となりました。

➤ **いじめ・不登校のサイン見逃しが
繰り返される背景・館岡信也院生：**

「いじめの見逃しがなぜ繰り返されるのか」について、事例を基に意見交換をしました。

いじめの兆候をとらえる教師と子どもの人権感覚を磨くとともに、教師と児童、保護者で情報が共有できる関係とシステムを築くことの大切さについて学びました。また、多くのいじめ事案について、対岸の火事ではなく、どのように対応すればよいのかを自分事で考え、職員間で声を掛け合える学校づくりが、いじめの見逃しを繰り返さないために必要であることを確認し合いました。

参会者の声

◆職場も、校種も、立場も異なる先生方とじっくり話をできたのはすばらしい経験でした。管理職の先生方の構えに大変刺激を受けました。このような機会が増えるといいです。

◆ざっくばらんな中であっても、今後の自校の研修の在り方について考えることができたり、純粋に

「考える」ことを楽しむことができました。



【編集後記】

『協創』第4号は、「にいがた教育フォーラム 2017 in March」の特集を組みました。文部科学省大臣官房総括審議官義本博司様をお迎えし、教職大学院に期待される役割を改めて確認することができました。心より御礼を申し上げます。アンケートからは、義本氏の基調講演を踏まえたシンポジウム、ポスターセッション、ラウンドテーブルにおいて参会者それぞれが実践に対する深まりや新たな発見を得た様子を窺い知ることができました。次回のフォーラムがさらに主体的・対話的で深い学びの場となるよう取り組んで参ります。(古田島恵津子)

にいがた教育フォーラム 2017 in July

開催期日：平成29年7月22日（土）

内容（予定）：シンポジウム・ラウンドテーブル・情報交換会

* 詳細は後日、下記HP・チラシにて告知いたします。

新潟大学教職大学院 News Letter 「協創」 第4号 2017.4.1 発行

編集・発行・印刷

新潟大学大学院教育学研究科教育実践開発専攻（教職大学院）広報部会

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町 8050 番地

問い合わせ先: kyousyokudaigakuin@ed.niigata-u.ac.jp

ホームページ URL: <http://www.ed.niigata-u.ac.jp/kyousyoku/>

ニュースレター、各種案内等はHPに随時掲載しています。